2015年3月期
第2四半期決算説明会

2014年11月4日

株式会社日清製粉グループ本社

目　次

Ⅰ．小麦相場の状況

Ⅱ．TPPについて

Ⅲ．第2四半期（累計）実績、及び通期業績予想

Ⅳ．中期経営計画の進捗と具体的成果

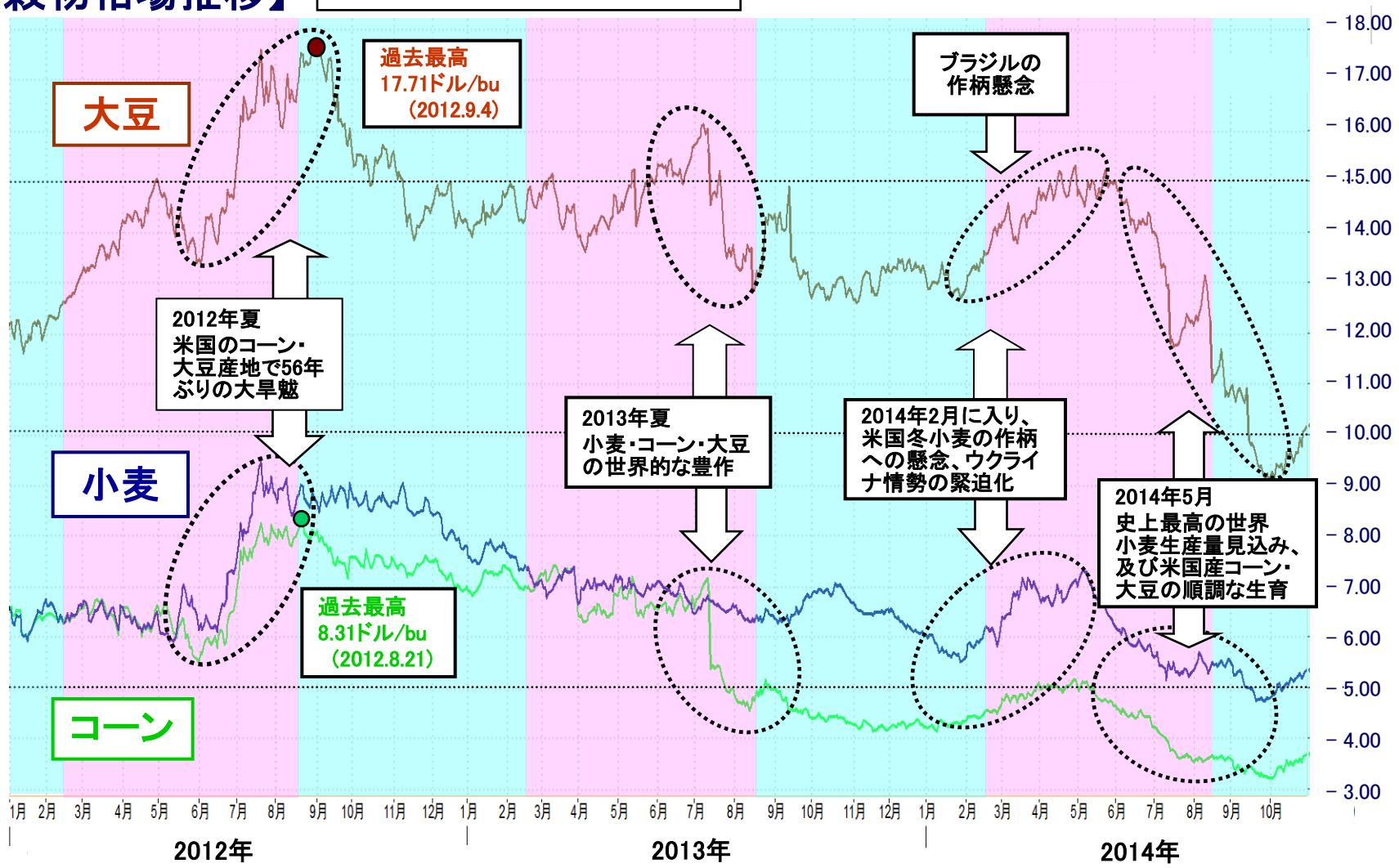
Ⅴ．利益配分について

Ⅰ．小麦相場の状況

小麦相場の状況①

【穀物相場推移】

シカゴ先物相場　（単位：US＄／Bu）

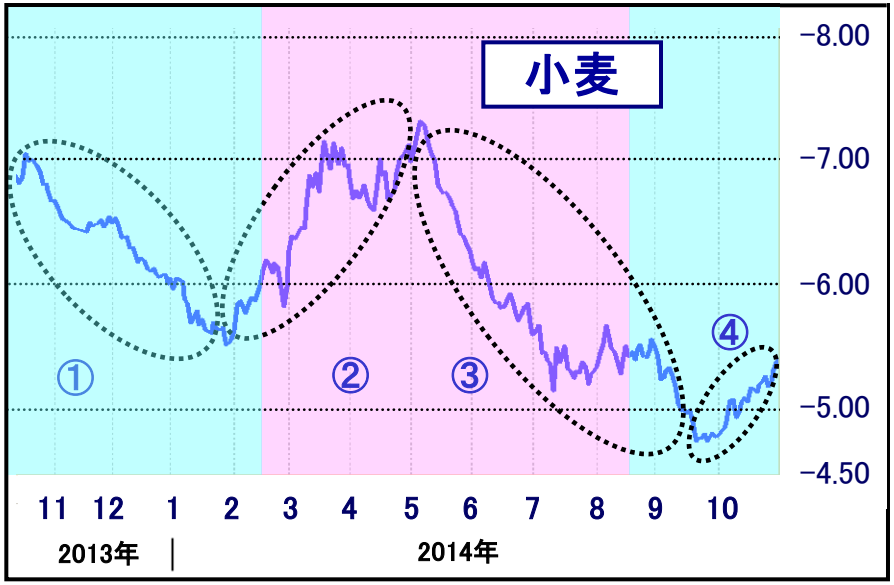


注）グラフの背景の色は、農水省の輸入小麦売渡価格算定期間ごとに色分けしている

小麦相場の状況②

【最近の小麦相場の動向】

シカゴ先物相場　（単位：US＄／Bu）







①2013年10月中旬以降：カナダや豪州での豊作（カナダは史上最高）、2014年産の米国冬小麦の順調な作付け等、世界的な小麦生産量の増加見通しから相場は下落基調で推移。

②2014年2月以降：米国冬小麦の乾燥・凍害による作柄悪化への懸念、及びウクライナ情勢の緊迫化から、相場は上昇に転じた。

③5月以降：2014年産の史上最高の世界小麦生産量見込み、及び世界的に潤沢な小麦在庫水準見込みから、相場は下落基調に転じた。

④9月下旬以降：米国コーン・大豆の収穫遅延見込みから、小麦相場も上昇し、現在5ドル/bu前半で推移している。

小麦相場の状況③

【2014年10月期　麦価改定】（改定額算定期間：2014年3月～2014年8月）

・小麦の国際相場は、2014年2月以降、米国での乾燥・凍害懸念やウクライナ情勢を背景に上昇したが、5月以降、世界の小麦在庫量見込みが潤沢なこと等から下落した。

・為替や海上運賃についても、大きな変動がなかった。

▽

2014年 10月1日～

輸入小麦政府売渡価格　2014年4月期とほぼ同水準（5銘柄平均▲0.4%、消費税込み）

業務用小麦粉の価格を据え置き

【今後の小麦相場の見通し】

上昇要因

・北米、ヨーロッパにおける天候不順による品質劣化に伴う高品質小麦の生産量減少見込み

・豪州における降雨不足による小麦生産量減少見込み

・天候不順による米国コーン・大豆の収穫遅延見込み

下落要因

・2014年産の史上最高の世界小麦生産量見込み、及び潤沢な世界小麦在庫水準見込み

・2014年産の史上最高の世界コーン、大豆の豊作見込み

・2015年産米国冬小麦の順調な作付進捗

Ⅱ．TPPについて

TPPについて①

TPP交渉の推移

2013年7月　日本がTPP交渉に参加

（参加12カ国・・・アメリカ、カナダ、ニュージーランド、チリ、メキシコ、ペルー、オーストラリア
ブルネイ、マレーシア、ベトナム、シンガポール、日本）

＊政府・・・「農林水産分野の重要5項目（コメ、麦、牛・豚肉、乳製品、砂糖）の聖域の確保を最優先する」との考え

重要5項目

コメ	58	品目
麦	109	
牛・豚肉	100	
乳製品	188	
砂糖	131	
計	586	品目

全品目9,018品目のうち、
「重要5項目」 586品目の関税を
全て維持した場合、
自由化率は93．5%となる

日米関税交渉の進展が 難航するTPPの大前提となる中、2014年4月に開催された日米首脳会談では合意には至らず、以後、二国間交渉が継続されているが、依然として妥協点を見出せていない。参加各国は年内の合意を目指しており、引き続き日米交渉の進展を注視している。

TPPについて②

TPP等の国際貿易交渉に対する視点

① 現在日本で使用されている小麦の9割は海外に依存しており、食料安全保障面で支障がないよう、国民の主要食糧である小麦の安定確保についての十分な検証が必要

② 小麦は幅広い食品の原料に使用されており、小麦生産者、製粉産業、食品産業、消費者、すべての段階での影響を踏まえた国境措置の整合性の維持が必要

⇩

当社グループは引き続き、国民の『健康で豊かな生活づくりに貢献する』ことを目指し、**安全・安心な製品を安定的に生産・供給**していくことと、将来に想定される海外の製粉会社及び海外からの輸入品との競争において、コスト面で**勝ち抜けるコスト競争力**の強化をスピード感を持って推進していく

Ⅲ．第2四半期（累計）実績、及び通期業績予想

1．第2四半期（累計）実績

- 海外事業の拡大、及び国内業務用小麦粉、冷凍食品、中食・惣菜の出荷伸長等により増収（前年比＋3．2%）
- 拡販施策費の増加、原材料コストの上昇、及び製粉 福岡工場の減価償却費の増加等により減益 （営業利益 同 ▲16．5%、経常利益 同 ▲7．5%）
- 四半期純利益は増益（同＋0．7%）

（単位：百万円）	2015年3月期 第2四半期（累計）実績	業績予想	比	前年実績	比
売上高	246,946	253,000	▲2.4%	239,322	＋3.2%
海外売上高比率	13.8%	13.0%	―	11.3%	―
営業利益	8,601	9,900	▲13.1%	10,305	▲16.5%
経常利益	10,960	11,400	▲3.9%	11,845	▲7.5%
四半期純利益	7,172	7,700	▲6.9%	7,119	＋0.7%

※金額は百万円未満切り捨て

2. 2015年3月期 通期 業績予想①

下期は、出荷の拡大、生産性向上等のコスト削減、海外事業の拡大等に取組んでいくが、第2四半期連結累計期間の業績、並びに当社を取り巻く環境が厳しいことを踏まえ、通期業績予想を引き下げる

※金額は百万円未満切り捨て

（単位：百万円）	2014年3月期 実　績	2015年3月期 業績予想	前年差	前年比
売上高	495,930	530,000	＋34,069	＋6.9%
海外売上高比率	11.8%	15.8%	＋4.0%	―
営業利益	22,274	20,000	▲2,274	▲10.2%
経常利益	25,579	24,000	▲1,579	▲6.2%
当期純利益	15,098	15,200	＋101	＋0.7%

2. 2015年3月期 通期 業績予想②

3ヵ年計画の取り止めについて

NNI-120

第2四半期連結累計期間の業績、及び引き続き不透明な外部環境を踏まえ、足元の業績回復・向上の確固たる土台を築くことが重要であると判断し、今回は、来年度からの新たな3ヵ年（2015～2017）計画の策定を取り止め、平成27年度は単年度の経営計画のみを策定し、これに注力する。あわせて、既に策定した3ヵ年（2014～2016）計画の数値目標についても取り止めることとする

2. 2015年3月期 通期 業績予想③

下期の業績回復に向けた具体的施策

NNI-120

＜製粉事業＞

・シェアアップの推進、及び拡販施策費の効率的な使用

・福岡新工場への生産集約を含めたコスト競争力の強化

・ミラー・ミリング社等のPMI（経営統合施策）推進

＜食品事業＞

・プレミアム新製品の積極的な市場投入による収益力向上

・成長を続ける冷凍パスタの効果的な販促施策による出荷拡大

・コストに見合った適正な利益確保（価格改定等）

・開発、購買、生産、物流等のコストダウン実行

・10月から稼働したベトナム新工場の活用によるパスタソースのコスト競争力の強化

中期経営計画の基本戦略

NNI-120

基本戦略	主な施策
1. トップライン（売上高）の拡大と海外事業の拡大を最優先戦略と位置付け、重点分野に経営資源を集中的に投入	■国内の出荷拡大による利益増加 ・製粉シェアアップ ・成長分野（中食・惣菜、冷食他）の出荷拡大
2. コア事業の基盤強化と、成長分野の積極的拡大	■海外事業の拡大 ・製粉、プレミックス、パスタ関連、医薬品原薬他
3. M&A、アライアンスをスピード感を持って積極的に実行	■新規M&A、アライアンス ・製粉、プレミックス、加工食品、ベーカリー関連事業他
4. 安全・安心な製品を生産・供給するとともに、コスト競争力の確保・強化に取り組む	■コストダウン ・国内製粉工場の臨海大型工場への生産集約 ・海外生産拠点の活用（トルコ、ベトナム他）

Ⅳ. 中期経営計画の進捗と具体的成果

NNI-120

1．国内製粉工場の生産集約①

将来に想定される海外の製粉会社及び海外からの輸入品との競争に勝ち抜けるコスト競争力の強化を図り、臨海大型工場への生産集約を加速

（※生産能力は原料小麦ベース）

福岡新工場（福岡市）



・2014年2月に稼働後、九州全域を中心に小麦粉を供給、シェア拡大を目指す

・小規模な内陸2工場（鳥栖工場・筑後工場）を閉鎖（600ﾄﾝ/日）

■生産能力　：　550ﾄﾝ/日（2ライン）

■設備投資額：約100億円

知多工場新ライン（愛知県知多市）



・2013年10月着工、2015年5月完工予定

・新ライン稼働後、知多工場の全生産能力は、660ﾄﾝ/日から980ﾄﾝ/日に拡大

・併せて内陸の名古屋工場の一部ライン（380ﾄﾝ/日）を停止予定

■生産能力　：　320ﾄﾝ/日（1ライン）

■設備投資額：約60億円

1. 国内製粉工場の生産集約②
～ 原料小麦サイロの収容力増強 ～

東日本、西日本で当社最大の生産能力を持つ鶴見工場・東灘工場において、原料小麦サイロの収容力増強を推進

- 需要に即した原料小麦の安定的な確保
- 主力工場と一体となった効率的なサイロ運営

鶴見工場

- 着工　：2015年3月予定
- 完工　：2016年6月予定
- 総収容力（増設後）：131,000ﾄﾝ
- 増設収容力　　：26,000ﾄﾝ
- 設備投資額：約35億円



鶴見工場

東灘工場（阪神サイロ㈱を増設＊）

- 着工　：2014年5月
- 完工　：2015年4月予定
- 総収容力（増設後）：105,000ﾄﾝ
- 増設収容力　　：20,000ﾄﾝ
- 設備投資額：約16億円



阪神サイロ㈱

＊阪神サイロ㈱は東灘工場に原料小麦を供給するサイロ会社で当社連結子会社

1. 国内製粉工場の生産集約③

＊2015年5月（知多工場新ライン稼働後）

		工場数	生産能力比（小麦ベース）
●	臨海・大型工場（大型原料船接岸可能）	5	83%
■	内陸工場	4	17%

●：閉鎖または閉鎖予定工場



2. 海外事業の拡大（製粉）①

ミラー・ミリング・カンパニーLLC（以下ミラー・ミリング社）の事業拡大

（※括弧内は生産能力で原料小麦ベース）

2012年3月　■ミラー・ミリング社を買収し米国小麦粉市場に進出　（1,730トン／日）

2013年2月　■生産能力 を510トン／日（約30%）増強　（2,240トン／日）

7月　■ウィンチェスター工場で、110輌のシャトルトレインによる原料搬入設備の建設に着手（2014年末稼働予定）



2014年3月期の年間出荷数量は約20%増と大幅伸長し、今期も好調を持続

2014年5月　■*米国内　製粉4工場取得*

4工場生産能力　：　*3,660トン／日*

取得額　：　*215百万米ドル（約221億円）*

4工場取得の意義
- 「NNI－120」の海外事業拡大戦略に基づき成長を加速
- 米国製粉業界の合従連衡の進展により、ミラー・ミリング社としてさらなる成長の必要性
- 原料小麦の種類・品種、生産地域等が多様化することで、これまで以上に幅広く原料情報やノウハウの習得等が可能になる

2. 海外事業の拡大(製粉)②

ミラー・ミリング社　製粉4工場の買収とPMI(経営統合施策)の推進

■4工場の取得により、生産能力が5,900ﾄﾝ/日となり、*全米で第4位*に躍進

■2工場体制から6工場体制への業容拡大に合わせ*PMI(経営統合施策)を推進*し、買収効果の最大化を目指す

＜PMIの取組み内容＞

・顧客や取引先等の承継、ITシステム整備、生産管理・品質管理機能の強化

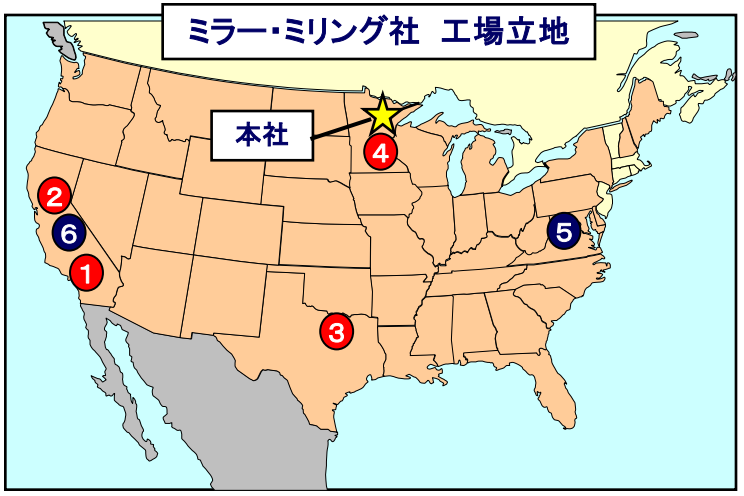
・売上拡大に向けた販売戦略の策定、技術スタッフによる顧客サポートの取組み、新たに採用した営業担当者を中心に新規拡販を実施

・グループ会社とのシナジー

		生産能力(ﾄﾝ/日)
新規取得	① ロサンゼルス工場(ｶﾘﾌｫﾙﾆｱ州)	780
	② オークランド工場(　〃　)	880
	③ サギノー工場(ﾃｷｻｽ州)	880
	④ ニュープラーグ工場(ﾐﾈｿﾀ州)	1,120
既存	⑤ ウィンチェスター工場(ﾊﾞｰｼﾞﾆｱ州)	1,640
	⑥ フレズノ工場(ｶﾘﾌｫﾙﾆｱ州)	600

(※生産能力は原料小麦ベース)

計　5,900ﾄﾝ/日

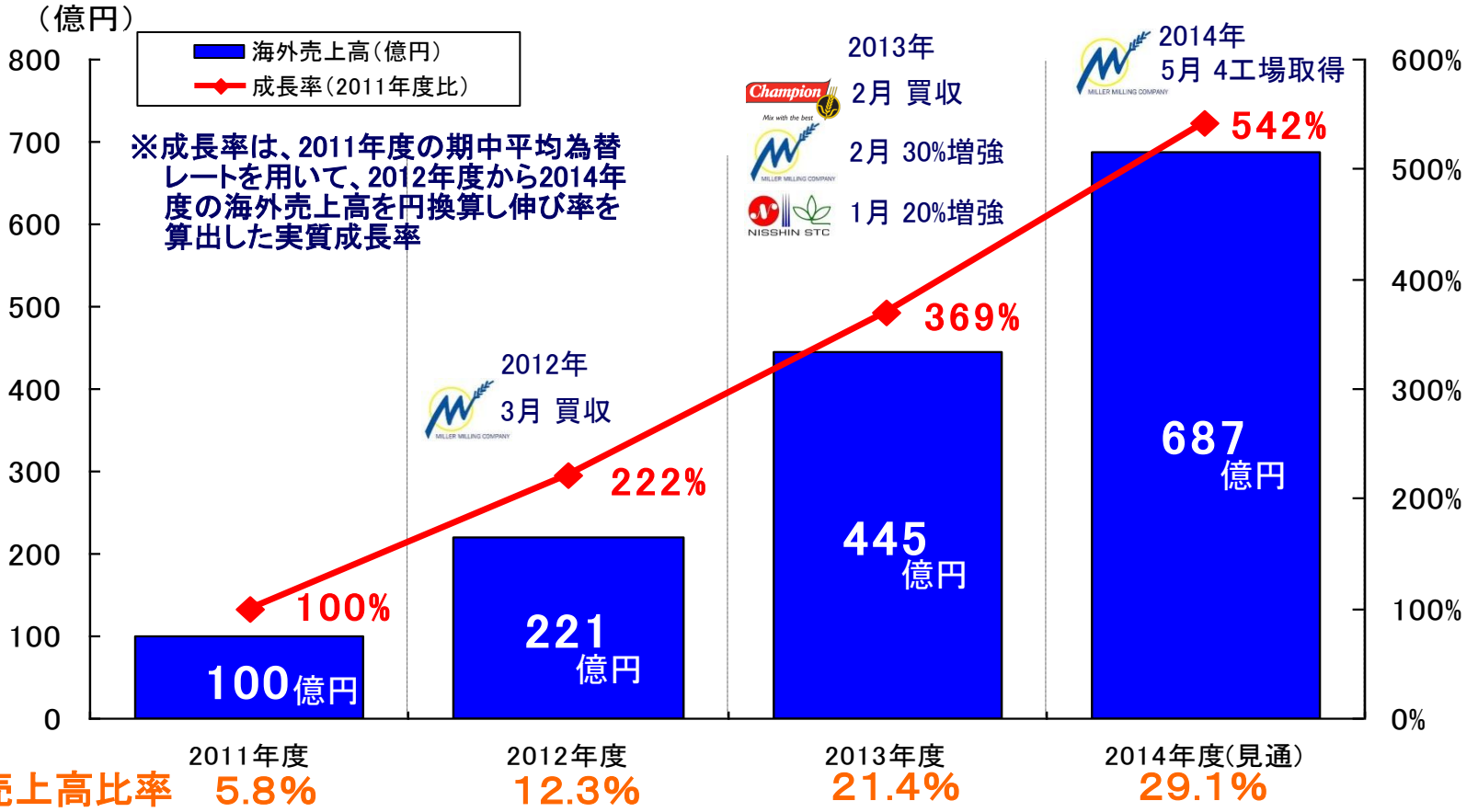


2. 海外事業の拡大(製粉)③

製粉事業の海外売上高の推移と成長率

製粉事業の海外売上高は
3年間で実質5.4倍に拡大

ロジャーズ・フーズ(カナダ)　日清STC製粉(タイ)　ミラー・ミリング(米国)　チャンピオン製粉(ニュージーランド)



3. 海外事業の拡大(加工食品)①

ベトナム日清製粉 新工場竣工

日本向けの供給拠点並びに将来的なASEAN地域の市場開拓を目的に、ベトナムに現地法人を設立。2014年10月にパスタソース等の調理加工食品の生産工場が竣工

- 会社名:ベトナム日清製粉 Co.,Ltd. ❶
- 事業内容:パスタソース等レトルト食品の製造・販売
- 工場設備投資額:約15億円



❷ タイ日清製粉Co.,Ltd.
(1989年操業開始)



これまでパスタソース等の調理加工食品の生産拠点は国内とタイ日清製粉であったが、今後はベトナム日清製粉を加えた3拠点体制となる

3. 海外事業の拡大(加工食品)②

トルコ日清製粉A.S. の設立

トルコにパスタの製造販売会社を設立
生産体制を強化し、パスタの世界展開を
加速する

- 会社名　：トルコ日清製粉A.S.
- 出資比率
  当社ｸﾞﾙｰﾌﾟ:51%、丸紅(株):25%、ﾇﾌﾝ・ｱﾝｶﾗ社:24%(トルコ最大のﾊﾟｽﾀﾒｰｶｰ)
- 事業内容 ： パスタの製造販売
- 工場稼働 ： 2015年4月予定
- 設備投資額:約24億円



トルコ共和国

- 世界第3位のデュラム小麦の産地
- 欧州、中東、アジア、ロシア
  アフリカへの供給拠点

パスタの生産拠点
日本・米国(ﾒﾀﾞﾘｵﾝ・ﾌｰｽﾞInc.)・トルコの3拠点体制

プレミックス事業の拡大

ASEAN地域でのﾌﾟﾚﾐｯｸｽ事業の拡大を
目的に、タイ日清テクノミックCo.,Ltd.の生
産能力を25%増強し、インドネシアに販売
会社を設立

タイ日清テクノミック Co.,Ltd.

- 能力増強 ： 6,000ﾄﾝ/年(設備投資額:約2億円)
  (26,000ﾄﾝ/年→32,000ﾄﾝ/年)
- 製造品目 ： ﾍﾞｰｶﾘｰﾐｯｸｽ、ﾌﾞﾚｯﾀﾞｰ、ﾊﾞｯﾀｰﾐｯｸｽ他
- 稼働　　： 2014年末

PT.インドネシア日清テクノミック

- 業務用プレミックスの販売会社
- 2013年4月事業開始



＜業務用プレミックスの海外拠点＞

❶ タイ日清テクノミック Co.,Ltd.

❷ 新日清製粉食品(青島)有限公司

❸ PT.ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ日清ﾃｸﾉﾐｯｸ〔販売〕

4. 冷凍食品事業の強化

**マ･マーマカロニ㈱神戸工場に冷凍食品工場を建設し、
成長を続ける冷凍パスタ事業の更なる成長･拡大を図る**

マ･マーマカロニ㈱ 神戸工場 冷凍食品工場

- 生産品目 ： 冷凍パスタ
- 工場稼働 ： 2015年5月予定
- 設備投資額 ： 約28億円
- 生産能力 ： 5,200万食/年

トルコ日清製粉A.S.の稼働により、マ･マーマカロニ㈱神戸工場のパスタの生産が停止するのに伴い、同工場に新たに冷凍食品工場を建設する予定。

冷凍パスタ

- 日清フーズ㈱は1993年に家庭用冷凍食品市場に参入
- 以来、冷凍パスタのリーディングカンパニーとして、「マ･マー」「青の洞窟」等のブランドにより冷凍パスタ市場を創造し、市場の発展を牽引
- 近年では「弾む生パスタ」シリーズ等のヒットもあり、大幅売上げ伸長を続ける



Ⅴ．利益配分について

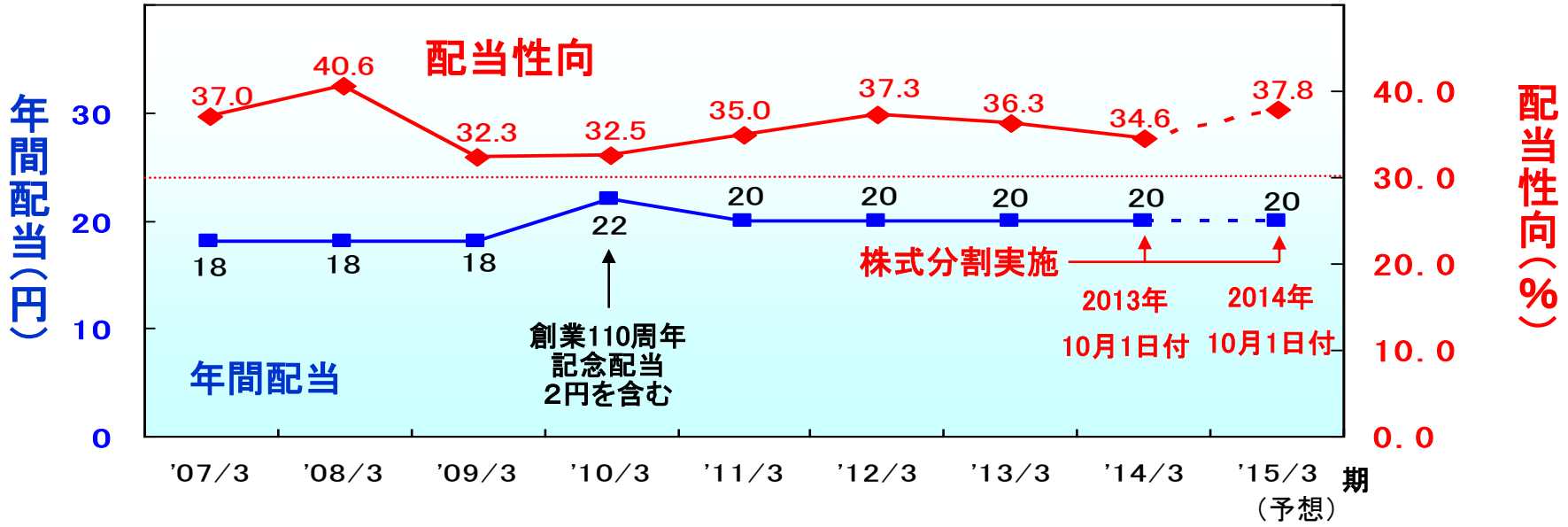
利益配分について

利益還元の強化に向けた継続的な取り組み

■株主の皆様への利益還元、及び流動性の向上を目的とした**株式分割**の実施

2年連続で1株につき1．1株の割合をもって株式分割を実施。分割に伴う配当金の調整は行わず**実質増配**となる予定 （2013年10月1日付け、2014年10月1日付け）

■成長、拡大に向けた戦略投資への配分を行い将来の企業価値を高めていくと同時に、現在及び将来の収益状況及び財務状況を勘案し、**最適な利益還元策**を積極的、且つ機動的に行っていく



【参考】 主な戦略投資とスケジュール

（　　）投資額（概算、見込み）　▲（着工）　●（稼働）　●買収・出資

国　内

（単位：億円）

				2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
製粉	福岡工場　新設	輸入品に対抗できるローコスト体制の確立	(100)	▲→●			
	知多工場　ライン増設		(60)		▲→●		
	阪神サイロ　増設		(16)			▲→●	
	鶴見サイロ　増設		(35)			▲→●	
加工食品	ﾄｵｶﾂﾌｰｽﾞに出資	中食・惣菜事業拡大	(75)	●（持分法適用会社）			
	冷凍食品工場　新設	ﾏ･ﾏｰﾏｶﾛﾆ神戸工場 冷凍食品事業拡大	(28)			▲→●	
酵母・バイオ	オリエンタル酵母工業 総菜工場（千葉県）新設	総菜事業拡大	(15)	●（2012年2月）			
	補酵素棟（滋賀県）新設	診断薬原料事業拡大	(5)		▲→●		

海　外

				2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
製粉	ミラー・ミリング社（米）	買収・増強・工場買収	(350)	●（2012年3月）→●（30%増強）→●（4工場買収）			
	ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝ製粉（ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ）	買収	(35)		▲→●		
	日清STC製粉（ﾀｲ）	生産能力増強	(3)	→●（20%増強）			
加工食品	ﾄﾙｺ日清製粉（設立）	ﾊﾟｽﾀ工場新設	(24)			▲→●	
	ﾍﾞﾄﾅﾑ日清製粉（設立）	ﾊﾟｽﾀｿｰｽ工場新設	(15)			▲→●	
	ﾀｲ日清ﾃｸﾉﾐｯｸ（増強）	ﾌﾟﾚﾐｯｸｽ　生産能力増強	(2)			→●（25%増強）	

記載内容に関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。